



担い手通信



JA bank Mitc

Topic

今月の話題

ご飯もう一口、国産豆腐は月に2丁… プラス 11ポトイ作戦始動 食料自給率38%にダウン日々の食卓ちよつと工夫を

① 飯を1日もう一口、国産豆腐を月に2丁——。食料自給率を1ポトイ上げるために必要な国民の食事量の一例です。2016年度の食料自給率(カロリーベース)は38%と、先進国の中で最低水準にまで落ち込みました。自給率向上へ、誰でも簡単にできる「1ポトイ上げる」ためのちよつとした工夫を紹介します。

農水省が提示する食料自給率を1ポトイ向上させる方策によると、全国民が、ご飯を1日にもう一口(17g)食べるだけで1ポトイ自給率が向上します。「国産米粉パンを月に6枚(400g)食べ

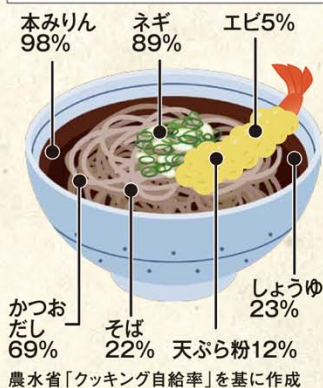
る」「国産大豆100%の豆腐を月に2丁食べる」「国産小麦100%のうどんを月に2玉食べる」などでも向上します。これら全てを実現できれば、4ポトイ向上する計算です。日常の食事を増やすの

② ではなく、国産の農産物を選ぶことで自給率が上がります。

原料の輸入割合が高いそばやうどんでは自給率は下がり、「エビの天ぷらそば」は24%まで低下します。本みりん(98%)、かつおだし(69%)などだしの自給率が高いのですが、しょうゆ(23%)、エビ(5%)などの低さが自給率を下げる要因です。しかし、そば粉を100%国産にすれば、天ぷらそばの自給率は71%まで上昇します。最近ではラーメン用やちゃんぽん用、パスタ用など小麦の品種開発が進んでおり、こうした品種が広がれば自給率向上に貢献しそうです。

農水省は自給率への意識を高めてもらおうと、インターネット上で、料理の自給

一般的な天ぷらそばの自給率



数字でみえる 三重県の農と食

5万9900 畧

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

三重県の耕地面積

東海農政局の「東海3県の耕地面積(平成28年)」によると、三重県の耕地面積は平成28年時点で5万9900畧。内訳は田が75%、畑(普通畑、樹園地、牧草地)が25%です。田の割合が北海道を除く都府県の平均の66%と比べても高く、稲が重要な農産物になっています。北海道を除く都府県の耕地面積順位は22位です。

率を計算するソフトを公開。ハンバーグ(14%)、ねぎとろ井(82%)といったメニューや、家庭で作る料理の食材を選んで入力すれば、食料自給率を算出できます。16年度は国民1人が1日当たり242.9gを摂取しており、このうち国産食材からの摂取は91.3gにとどまっています。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

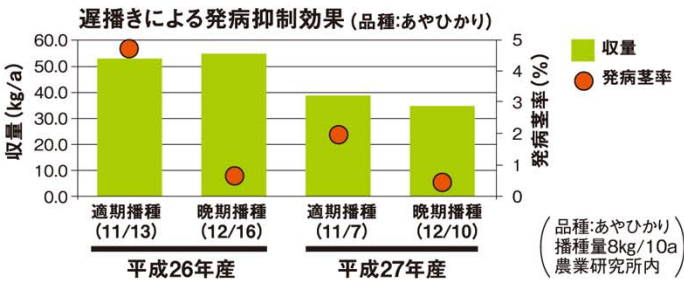
コムギ黒節病の総合的防除技術

三重県農業研究所は、金属銀水和剤による種子消毒と1カ月程度の播種を遅らせる耕種防除、低コストの保菌状況調査を組み合わせたコムギ黒節病の総合的防除の有効性を確認しました。

種子伝染性細菌病であるコムギ黒節病は供給種子の汚染による被害拡大が懸念されています。

発病抑制には金属銀水和剤での種子消毒が有効です。種子重量0.5%と1.0%の湿粉衣処理、20倍液で発病抑制に効果があり、薬害も見られませんでした。また、遅播きで適期播種と同水準の収量を保ちながら、発病を抑制できた。播きは地域性や気象変動などで、収量が不安定になる可能性があります。

安定になる可能性があります。保菌粒率調査には、96穴のマルチウエルプレートで作成した種子の浸水液を菌選択培地に移植することで、従来の方法より簡単に保菌の判断ができます。試薬量も低減するため低コストで、同研究所では種子健全度のモニタリングへの活用が期待できるとしています。これらの試験研究は農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(25063)により取り組みました。



お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産研究課 ☎0598-42-6359

JAみえきた 6次化商品売り場拡大 量販店にコーナー

JAみえきた地産特販課は、6次産業化商品の拡大に力を入れている。8月には管内の四日市市にあるイオン四日市尾平店に、JA商品を販売するコーナーを設置した。大手量販店で、同JAの全ての加工品を並べて販売するのは初めて。直売所とは違う客層から支持され、売り上げは好調だ。今回、イオン四日市尾平店には「非常時持出米」やドレッシング、焼き肉のたれ、「とり飯の素」などを陳列した。

(2017/8/30 ワイド2東海)

JA鈴鹿 秋季の植木初市盛況

JA鈴鹿は9月12日、秋季で初めてとなる植木市を同JA植木事業所で開いた。会場には、生産者からサツキやツツジ、タマリユなど計54点が出荷された。当日は特産の植木を求め、県内外から卸売業者や造園業者ら買参人13人が訪れ、にぎわいを見せた。買参人は、次々と商品をせり落とし、約1時間で全ての商品が落札された。同JAの植木市は、毎月2の付く日(2日、12日、22日)に開き、年間21回開催している。

(2017/9/16 県版三重)

JA三重中央 声の反映へ戸別訪問 役職員が組合員100人に初

JA三重中央の前田孝幸組合長ら役職員は7、8月の2カ月間、自己改革の実践に向けて組合員と直接意見交換をするため、初の戸別訪問活動を行った。担い手農家や各部会役員、女性組織役員を中心とした組合員、約100人を訪問した。訪問時には、JAが取り組む事業改革の内容について説明。6月の役員改選後、新たな体制で自己改革へ取り組む意気込みを組合員へ示した上で、JAに対する要望を聞いた。組合員からは「担い手不足の問題」「農作業の支援体制」「農産物の販売力向上」など、さまざまな要望が上がった。

(2017/9/8 ワイド2東海)

短期の運転資金が必要になった方に

今ならJAバンク利子補給制度により最大年1%の利子補給が受けられます。

スーパーS資金

農業経営改善促進資金

認定農業者向けの低利・便利な短期運転資金です

- 家畜等の購入資金
- 種苗代・肥料代・雇用労賃などに
- 農舎・畜舎の補修農業機械の修繕費



詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

平成29年9月現在



【金利情報】平成29年9月21日現在

農業近代化資金

実質金利
 年0%~0.30%
 (固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お借入ができます。

スーパーS資金

年1.5%
 (変動金利)